

公開審査及び第14回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2012年5月20日(日)

公開審査: 幕張国際会議場・302号室 13:45~17:10

第14回委員会: 幕張国際会議場・204号室 17:20~18:00

場所: 経済産業省別館5階526号共用会議室

出席者

委員長

尾池和夫 財団法人 国際高等研究所 所長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会 (東京都立大学 名誉教授)

委員 (五十音順)

伊藤和明 NPO 法人 防災情報機構 会長

菊地俊夫 日本地理学会 (首都大学東京 教授)

小泉武栄 東京学芸大学 教授

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団代表理事

高木秀雄 日本地質学会 (早稲田大学 教授)

佃 栄吉 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表

中川和之 日本地震学会 (時事通信社 山形支局長)

中田節也 日本火山学会 (東京大学地震研究所 教授)

成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

オブザーバー

国土交通省砂防部砂防計画課火山対策係長 吉松 雅行

気象庁地震火山部火山課噴火予知調整係長 高木 康伸

気象庁地震火山部火山課調査官 上野 忠良

環境省自然環境局国立公園課 課長補佐 高橋啓介

事業係長 速水香奈

事務局

産業技術総合研究所 加藤 碩一

産業技術総合研究所 利光 誠一

産業技術総合研究所 下川 浩一

産業技術総合研究所 渡辺 真人

産業技術総合研究所 濱崎聡志
産業技術総合研究所 及川輝樹
産業技術総合研究所 今西和俊

日本ジオパークネットワーク 齊藤清一

公開審査 質疑応答録

事務局の渡辺より、連合大会で日本ジオパーク委員会公開プレゼンテーションを開くことの趣旨と、GGN・JGN等の仕組み・体制、審査・再審査の流れ、スケジュール、採点表・評価のポイントを説明後、以下の6地域（世界1地域、日本5地域）の公開審査が行われた。

世界ジオパーク公開審査

[阿蘇]

質疑応答：

①世界ジオパークを目指しているのに、世界とのかかわりは重要。テーマが「巨大カルデラと日本への影響」となっているが、噴火などの世界とのかかわりはどう考えているか？

→巨大噴火が世界に影響を与えているのは間違いが、具体的にどのような影響があったかわからないため踏み込めなかった。

②ガイドの質の向上はどのようにしているか。間違っことをしゃべっていることがあるが。

→基礎編、実践編などレベル別コースをつくり対応。専門家による要請を行っている。エコガイドも巻き込んで養成している。

③説明などで、専門用語がいきなりでてきているがどうか考えているか？

→専門用語を唐突にでてきているが、単なる観光的な所からジオ色を強めていきたいため専門用語等を使っている。

④ハードが整備されたのは認める。しかし、住民参加はどのようになっているか？また突然、来た人への対応。特に外国人への対応はどのようになっているか。HPに英語版がないが。

→ペンション村、旅館組合などを巻き込みジオパーク宿泊キャンペーンを実施している。外国人は阿蘇駅前などの観光協会の各所で対応可能である。

⑤申請書に過去の改善すべき点への回答がない。看板の数やジオツアーのコースについての記載がない。

→過去の指摘について改善したと考えているが、今回は今まさに取り組んでいることを中心に話をした。後に資料を配るので、改善した点はそちらを見てほしい。

⑥火山のジオパークは日本にたくさんある。阿蘇のユニークさの主張はどのように実行しているのか。

→巨大カルデラとその中の活動中の中岳を目玉としている。またその中の人々の生活が巨大噴火によってつくられて地域で存続していることを強調したい。

⑦ジオパーク内の各首長がジオを説明できることが重要だが、それはできているのか。周辺自治体との関係は？

→草原が共通のキーワードでつながっているので、それに関連して各自治体で説明できる。また、大分県側との連携も考えている。

日本ジオパーク公開審査

[美の国 湯沢]

①ジオといった時、資源・環境・防災で、資源を取り扱っていただくことは重要。しかし、防災が弱いと感じられる。特に地震防災は地域の特性と関係があるので、そちらも申請書に書き込んで欲しい。またそれに関連して、近隣地域との連携はどうなっているのか？

→宮城県内陸地震に関連して、宮城県栗原市がジオパーク活動に関心を持っているので連携を考えている。

②地熱、清水、美が三テーマだが、それぞれの連携が充分なされていないように見受けられる。

→多様なジオサイトをまとめるために、これらのテーマを選んだ。16サイトの資源をどうまとめるか今後研究していく。

③外の人達に、どのような入り口でジオパークを見せるか。あれもある、これもあるではジオパークではないので、やっていく内に絞り込んで欲しい。

“美の国湯沢”と言った時に、あいまいさが残る。学術的に美をどう裏付けていくかが重要だがどう考えているのか。

→“美”は湯沢市のテーマである。学術的な研究も行っているが、わかり易い形でまとまっていけないので、分かり難い状況。

④“美”というのがジオとどう結びつくのか結局よくわからない。地域のテーマであるのはわかるのだが、そこから一度離れてテーマを考えた方が良いのでは。
→大変良いコメントをありがとうございました。

[箱根]

①多くの観光客が訪れる地域であるが、防災面の配慮はどのようになっているのか。その説明がなかったが。

→防災マップ等を整備して備えている。観光客が帰宅困難者になる可能性があるので、備蓄食の用意や女将の会等での周知などの対策を行っている。大涌谷には、外国人（韓国人、中国人）向けの防災情報の案内も用意している。また、硫化水素の感知装置の設置や温泉研での地下水・地震観測など防災に資する観測も行っている。

②伊豆半島の衝突の場であるので、国府津-松田断層も含めたジオサイトの設定を考えてほしい。温泉のみでは不十分である。

③身近な防災やジオの説明をできるように宿泊向けの説明の学習状況は？

→女将の会で勉強させていただいている。テーマとコースは観光圏として考えている。既存のハイキングコースなどを使い、その中で、一日で回れるコースなどを検討中であり、今後設定していきたい。

[八峰白神]

①お客さんを呼ぶための方策があるはずだが、環白神観光圏ということが申請書に書かれていたようだが、周辺自治体と連携はどうかになっているのか。

→ジオパークは八峰が先行しているが、周辺自治体と観光圏をつくっている。今後青森県側を含めて連携していきたい。

②ジオサイトが白神山地と離れているが、その関係はどうかになっているのか。また、八峰町は合成地名なので、名前としてはいかがなものか？白神を入れるなら地域を広げる必要があり再考が必要。

→見学できない白神山地の地質が海岸部で見られることが売りである。

③世界遺産とジオパークの棲み分けはどうか？なぜこの地域のみ切り出す必要があるのか。

→白神山地があつての我々の生活がある。なぜ白神山地があるのかを知るためにジオパークにしたい。

- ④海岸部と山地の関係、つながりが良く見えない。特にジオ的な関連が。
→その通りだと思う。
- ⑤白神山地の地質が海岸部で見られるということなので、白神山地の形成をストーリーにすればよい。
- ⑥春秋林道のストップが、ブナ林保護の重要な分岐点となった。そこはジオサイトとして入っているのか？
→まだ入っていないが、今後第2期のジオポイント設定時に入れていきたい。

[銚子]

- ①「地層の博物館」としての学習拠点としてだけでなく、銚子が銚子である理由のジオをもっと掘り起こしていけば良いのでは。たとえば、なぜ銚子があのような形になっているのかなど。また、大学の先生の受け売りでなく市民が自分の言葉で語れることが必要。
- ②銚子が銚子の形をしているのは、隆起しているためだ。「関東平野の底」が見えているということが重要。〇〇岩ということだけでなく、そういった認識が重要。
- ③ジオの恵みについては？ ジオの保全はどのように行っていくのか？
→恵みは、愛宕山層のつくる丘、キャベツ、海洋性気候、風力発電などである。保全については、屏風ヶ浦の崩壊を体験学習にいれるなどして行っている。また「銚子学基金」制度をもうけてその活用も考えている。
- ④屏風ヶ浦の砂鉄はジオのめぐみとなるだろう。屏風ヶ浦は行きづらいので、道の整備などを考えてほしい。隆起している所に利根川の河口があるのは不思議。これはきちんと調べてほしい。
- ⑤利根川の流路が人工的につくられたこともジオのストーリーになるので、その視点も取り入れてほしい。
- ⑥今回の地震の件で、何度も同じところが液状化が問題となった。地域の防災のために、それとジオをと結びつけて理解してほしい。浜口御陵さんと関係で企業とのタイアップはできないのか。

→浜口御陵さんは、堤をつくったのは別の所（和歌山県）だが、銚子とのかかわりを考え生かしていきたい。液状化は、銚子の市民はあまり起きていないと認識。マスコミとギャップがある。

[伊豆半島]

①準備状況や市民の活動は評価できるが、拠点施設は重要かつ必要。あるのか？無いのなら将来どうするか。

→既存の施設（道の駅や民間施設）を有効活用したビジターセンターの設置を目指している。

②伊豆半島の衝突ということなら、駿河小山を飛び地としてサイトとしないのか？伊豆半島の動きを感じさせる視覚的な全体像の工夫は？

→駿河小山はジオサイトとしては設定していないが、関連する地域としてツアーなどに取り込んでいる。全体像の説明は解説板を工夫して対応している。

③拠点は重要なので、従来の施設を活用するだけでというのは再考してほしい。各市町村に一ヶ所あるのが望ましい。観光客のオーバーユースに関してはどう考えているのか。

④災害のデパートみたいな所である。過去の災害の遺構の保全や活用を考えてほしい。石廊崎断層などの地震断層の保全や持越鉦山の地震による鋼滓の流出、津波など。また津波防災をどうするのか？想定東海地震が発生した時、西側はすぐに津波が来る。特に観光客をどうするのか考えてほしい。

→津波については、構造物の整備、避難経路など県と伴に進めている。ただ、対応する数が多いので充分に行えていない。

⑤南の国から見たというジオサイトというのは重要だが、火山の話ばかりで、植生、地形も大事。その点も考慮して欲しい。海岸植生、天城のブナ林など。

第 14 回委員会議事録

[報告・確認事項]

1. 資料確認後、前回議事録確認し承認された。
2. 第 5 回ジオパーク国際ユネスコ会議（島原）報告
委員会の最後に中田委員からジオパーク国際ユネスコ会議の報告がなされた。報告内容の概要は、以下のとおりである。
 - ・ 531 名 31 ヶ国 日本、中国、韓国、インドネシアの順に多い。
 - ・ 約 5300 人が参加。
 - ・ GGN から好意的な印象。皇室からの参加が驚かれた。
 - ・ 島原宣言が出された（JGN の HP で閲覧可）。そこで、防災と復興が強調された。
 - ・ 2015 年に山陰でアジア太平洋国際会議を開催予定。
 - ・ 6 月 8 日ジオパークの公式プログラム化に向けた会議が行われる。秋にユネスコの執行委員会にかかり、来年度以降にユネスコの公式プログラムになる運び。

[討議事項]

1. 6 か所全部を現地審査することが確認された。
2. 公開審査のまとめ
審査にあたって、良いジオパークを育てるといった観点で審査することが確認された。各地の問題点、審査にあたっての留意点について、以下のような意見が出、情報の共有が行われた。

阿蘇

- ・ 阿蘇市以外の自治体の参加状況を知るため、全首長の話を知りたい。
- ・ 現地で活躍している人達が全面に出ていない、表に出てこないことが心配。ジオをきちんと説明できるガイドが育っているのかが、今回の公開審査では伝わってこなかった。
- ・ 申請書には現地での活動も書かれているが、それが今回の公開審査の印象とはギャップがあるように感じられる。
- ・ 今ようやく世界にむけて始まりつつあるといった印象。ガイドがどれだけ良くなったか興味がある。

- ・ジオのガイドをつくっているらしいが、まだその活動が見えない。また、ジオの知識のあるガイドも認識できない状況。
- ・世界にふさわしいかの観点から現地審査を行うことが重要。

八峰白神

- ・エリアを広げ、名前も変える必要があり、公開審査ではそれを行うといていたが、それは何時かわからなかった。将来的なビジョンをもってやるのは良い。
- ・北側の深浦も一緒にやって欲しい。
- ・大学、学術面の支援が継続的に得られるか心配。
- ・地すべり地がブナ林になっており、これはジオの恵みとして重要。林道の行き止まりは十分ジオサイトになる。

美の国湯沢

- ・名前やエリアを変更する必要があるが、どうするか。

伊豆半島

- ・石廊崎地震でずれたサイトのブロックはもうない。

箱根

- ・災害面のサイトはどうなっているのか？神津松田断層や根府川、箱根の関所と富士山の噴火の関係などサイトにして欲しい。
- ・小田原市の参加の本気度は重要。地震などは触れてほしくないのでは。

銚子

- ・地元大学の関与が大きい状況。
- ・利根川の東遷と鬼怒川の自然流路，隆起との兼ね合い。
- ・旭市との連携はしないのか？
- ・地層の話をもっときっちり。読めるストーリーをきちんと紹介すること。屏風ヶ浦は第四紀層の模式地となるうる地点なのだから、もっと地層から読み取れることをきちんと説明してほしい。
- ・屏風ヶ浦は崩落などで危険。アクセス道路などの問題。

3. 現地審査日程

誰がどこに行くのが良いかの意見を1週間以内に事務局にあげていただき、それを考慮しつつ、各委員の希望・都合を調整して、事務局で現地調査の日程を調整することが確認された。

4. 次回委員会

9月24日（月）13:00 から開催。

参考：

[会議配布資料]

資料1 第13回日本ジオパーク委員会議事録（案）

資料2 現地調査日程調整シート